今年の夏を振り返る

昨年の3倍の猛暑日

平均気温は前年より1・7℃上昇

今年の夏は非常に暑く、最高気温が35℃以上の猛暑日、30℃以上の真夏日が続き、ニュースとなりました。

気象庁のデータによると、中国地方では、7月18日の梅雨明けを待たず、7月初旬から気温が30℃以上となる地域が増え始め、7月末から8月にかけて、加計気象観測所（アメダス）で猛暑日が23日記録されたほか、府中市で20日、広島では昨年の3倍を超える16日が真夏日でした（表参照）。

平均気温も1980年以降、各地で上昇傾向にあります。2005年から2015年にかけて横ばいでしたが、今年は広島、福山で前年より1・7℃高く、呉でも1・6℃上昇しています。その要因として、昨年秋ごろから継続していたエルニーニョ現象の終息と、ラニーニャ現象が指摘されています。気象庁のエルニーニョ監視速報によれば、今年春にエルニーニョが終息、7月からラニーニャの特徴がみられたとのことで、東シナ海の海水温の上昇に伴い沖縄から九州、四国の沿岸域で、6月頃から海水温の上昇が確認されています。

海水温の上昇は、猛暑日の増加を引き起こすだけではありません。

近年、集中豪雨による被害やゲリラ豪雨という言葉を日常的に耳にするようになりました。広島の雨量合計の値は年々増加の傾向が見られ、今年9月末時点で1793ミリメートルとなっています。

また、日最大降雨量は80ミリメートルとなっており、例年と同程度となっています。短時間に降る雨の量に着目してみると、「バケツをひっくり返したような雨」と表現される1時間降雨量の30ミリメートルをはるかに超える最大63ミリメートルの降雨が見られました。1時間最大降雨量の値は年々増加の傾向が見られ、近年は1日のうちのごく短時間に降雨が集中している様子がうかがわれます。

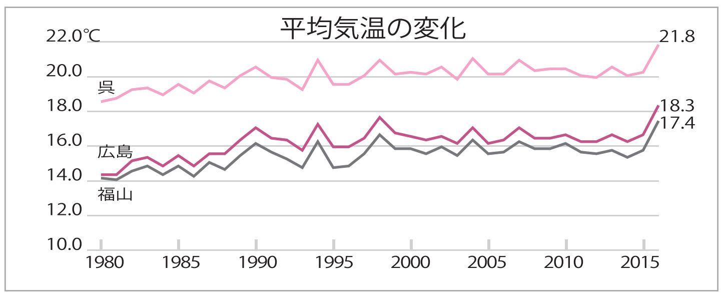
温暖化が進むとこの傾向はますます強くなり、災害発生だけでなく、農林水産業、自然環境や生態系への影響が懸念されます。

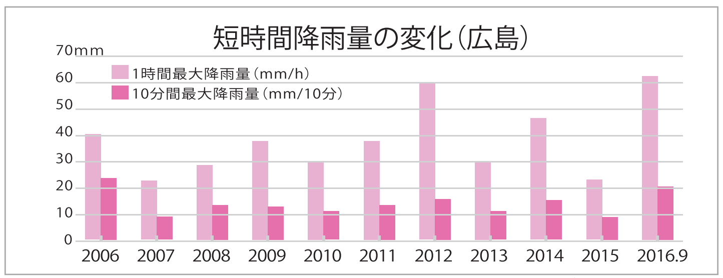
一人一人が地球温暖化を身近な問題として考え、二酸化炭素をなるべく出さないライフスタイル「クール・チョイス」（**3面に関連記事**）に取り組んでいきましょう。

（脱温暖化センターひろしま）

猛暑日、真夏日の観測回数

年	最高気温	気象台	特別地域気象観測所		アメダス気象観測所	
		広島	福山	呉	加計	府中
2015	35℃以上/猛暑日	5	4	0	10	12
	30℃以上/真夏日	42	42	31	44	50
2016	35℃以上/猛暑日	16	10	4	23	20
	30℃以上/真夏日	67	66	57	67	71



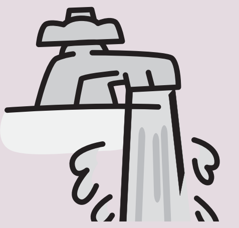


（出展:気象庁ホームページのデータより作成）

水道のお話

① 水源について

皆さんの生活や社会活動に欠かせない水道についてお話しさせていただく機会を得ましたので、3回に分けて株式会社水みらい広島からお届けします。



地球上には14億km^3の水

生活利用できる淡水はわずか

今回は、水道の水源についてお話しします。水道の水源として利用できる水は、地球上にどの程度あるかご存知でしょうか。

地球上には、およそ14億キロ立方メートルの水があるといわれています。しかし、そのうちの約97・5%が海水であり、塩分が含まれていない淡水は約2・5%しかありません。さらに、この淡水の大部分は氷や氷河として存在しているので、地下水や河川、湖沼の水などとして、我々の生活に利用できる淡水の量は、地球上の水の約0・8%しかないのです。日本では、平成26年度の1年間に約153億立方メートルの水が水道水として利用されています。これは、東京ドーム3万2000杯分に相当します。しかし、水道に利用している水量は、人口の減少、給水量の減少に伴いピーク（平成7年頃）の90%に減少しています。水源の種類は、ダムの水が最も多く47%、河川水が31%、井戸水が19%、その他3%となっています。

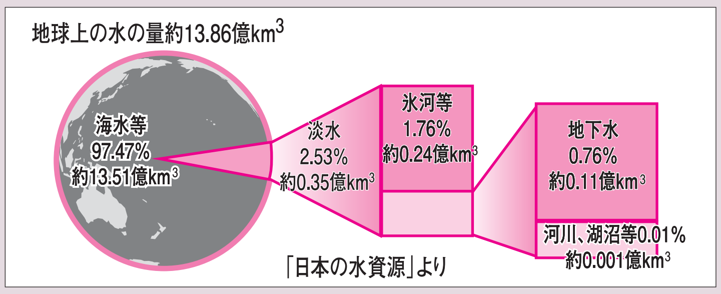
これらの水を安全な飲み水として供給するため、各種の分析機器やメダカ（生物センサー）を活用して監視を行っています。

（株式会社水みらい広島 水処理技術開発部）

◆株式会社水みらい広島と環保協◆

株式会社水みらい広島は、広島県が35%、水・環境の総合事業会社である水ing（スイング）株式会社が65%を出資し、2014年9月に誕生した国内最初の民間主導型の水道管理を行う公民共同企業体です。主な業務は、これまで広島県企業局が事業運営してきた一部の浄水場の運転管理、水道施設の維持管理、水質管理等を行っています。

同社と環保協は、互いの強みを活かし、事業を補完することで危機管理体制を構築し、地域密着による持続可能な水道事業運営に貢献することを目的として、平成26年6月26日に業務提携を行いました。



「日本の水資源」より

環保協の環境生活センター

④ 東部支所

環境・生活・衛生分野と公衛協支援

納得いただけるご提案をいたします

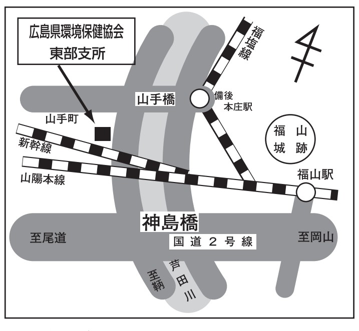
紅葉が徐々に山から街に近づき、深まりつつある秋を満喫できる良い季候となりました。

（一財）広島県環境保健協会東部支所は福山市山手町、「芦田川」の右岸土手沿い、新幹線と交差する当たりに位置します。土手から見える3階建ての淡いブルーの建物です。屋上には10KWの太陽光発電パネルを設置して、全て施設で利用しています。

近年、全国的な異常気象や自然災害のニュースも多いですが、今年6月23日の大雨では、山手町に立地する「東部支所」周辺に床下浸水等の被害が発生し、全国報道されました。幸い東部支所は、基礎地盤が高く、事なきを得ました。

東部支所職員は現在10名で、広島の本部との協働で環境・生活・衛生分野と公衛協関連の活動支援を行っています。東部支所は県東部エリアを中心に岡山・四国方面でも活動しており、一般の方や行政の方々にも長年お世話になってきました。幅広い業務を継続してきましたので、窓口へ検査の品を持ち込んでいただくケースもあります。最近はTV、ラジオでのCMの効果か、初めて来所してくださる方も増えてきました。

東部支所では、幅広いお問い合わせに対応出来るように窓口はもちろん、専門の渉外担当者が納得いただけるご提案等を持ってお伺いします。飲料水・水質・土壌・大気等の分析、食品・衛生関連の検査など、何でもご相談ください。



今後とも、地域のお客様から信頼され必要とされる検査機関をめざして、さまざまな問題に取り組んでまいります。地域社会やお客様の課題が多様化するなか、経験豊富な「かんほきょう」が蓄積した、技術・知識をどうぞご利用ください。人々が安全で豊かに暮らせる未来の実現に向けて活動してまいりますので、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（東部支所）